

命を守るトイレ備蓄プロジェクト キックオフミーティング

資料集

日 時：2026年（令和8年）6月25日（木）15：50～18：30

会 場：A P新橋3階 B ルーム

主 催：特定非営利活動法人日本トイレ研究所

後 援：内閣府

目 次

プログラム	1
命を守るトイレ備蓄プロジェクト	4
全国 47 都道府県の災害時トイレに関する意識調査	9
参考資料	
携帯トイレに関する規格適合製品リスト	25
日本トイレ研究所 活動紹介	29

プログラム

15：50 【開会あいさつ】

加藤 篤（特定非営利活動法人日本トイレ研究所 代表理事）

【来賓あいさつ】

横山 征成（内閣府政策統括官（防災担当）、内閣官房防災庁設置準備室次長）

【命を守るトイレ備蓄プロジェクトについて】

特定非営利活動法人日本トイレ研究所

災害時のトイレ問題が引き起こす健康被害と公衆衛生の悪化、トイレ対策を実施する上での課題を説明します。これらを踏まえ、市民がトイレを備える行動を喚起することを目的としたプロジェクトの立ち上げを提案します。

あわせて、全国 47 都道府県（4700 人）の災害用トイレに関する市民意識及び備蓄状況調査（インターネットアンケート）の結果発表を行います。

【応援ショートスピーチ】

加藤 孝明（東京大学 地域安全システム学 教授）
浅野 幸子（減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表）
秋富 慎司（金沢医科大学病院 特任教授）
鈴木みゆき（絵本専門士支援協会 代表理事）
山崎 宏史（東洋大学 都市環境デザイン学科 教授）
岡山 朋子（大正大学 地域創生学科 教授）
福井 照（国土強靱化・防災・減災支援機構 理事長） ほか

（順不同・敬称略）

17：00 【休憩】

17：20 【懇親会】

18：30 【閉会】

命を守るトイレ備蓄プロジェクト

あなたの声で、トイレの備えをあたりまえに

2026年6月25日

【1】命を守るトイレ備蓄プロジェクトが目指すこと

災害時のトイレ問題を解決するため、自助としてトイレを備える行動を喚起することを目的として、「命を守るトイレ備蓄プロジェクト」を立ち上げます。災害時に水洗トイレが使えなくなったときの備えの第一歩として「携帯トイレ*の備蓄」を呼びかけます。これをきっかけにトイレ対応の自助力を高め、災害関連死ゼロを目指します。

*携帯トイレ：断水や排水不可となった洋式便器等に設置して使用する袋タイプのトイレ。

【2】日本トイレ研究所が取り組むこと

本プロジェクトでは、自助としてのトイレ備蓄を推進するために、主に以下の4つについて取り組みます。

1. 全国規模で災害時のトイレに関する意識調査

年1回、全国47都道府県（4700サンプル）の災害用トイレに関する調査（インターネットアンケート）を実施し、継続的に意識及び備蓄状況の把握に努めます。

事前調査では、「災害用トイレ（携帯トイレ・簡易トイレ）」を自宅に備えている割合は20.6%であり、「飲料水」43.3%の約半分にとどまりました。

2. 携帯トイレの備蓄推進イベント（仮称）の実施

携帯トイレの備蓄の必要性を多くの人に知ってもらうため、備蓄推進イベントを実施します。また、備えて終わりにならないよう、使い方の確認、保証期間・保管場所の確認、補充の必要性などを啓発し、すでに備えている人にも備えのチェックを促します。トイレ備蓄文化の創出を目指して、継続的に実施していきます。

3. 災害時のトイレ自助力を高めるウェブサイト

本プロジェクトの趣旨や取り組み内容等をウェブサイトに掲載して広報します。災害時のトイレ対応に関する情報に関しては、災害が起きた時にすぐにシェアできるようします。また、携帯トイレなどの災害用トイレとはどのようなものか、使用方法、備蓄量の目安、併せて備えておくべきもの等を伝える啓発ツールを作成し、備蓄の行動を促します。

4. トイレ自助力の向上に賛同する地方公共団体との連携

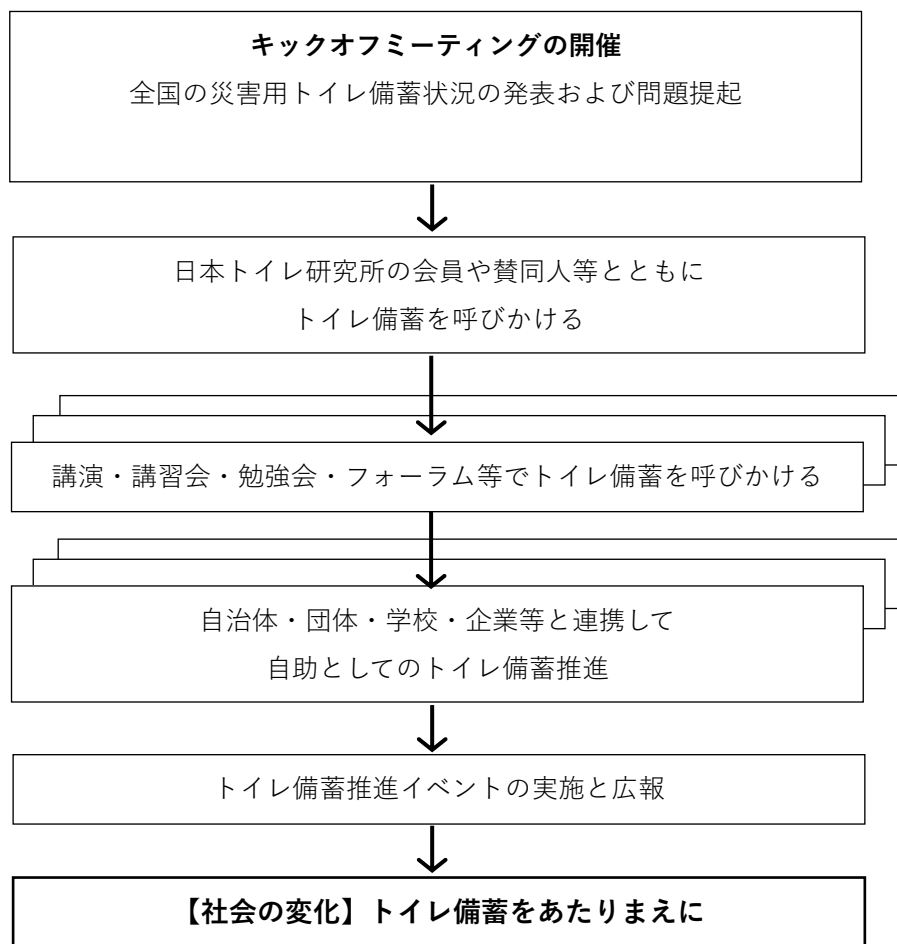
地方公共団体と連携して情報発信します。トイレの備えを周知する啓発ツール（データ）を自治体に案内し、市民・企業・団体に呼びかけられるようにします。

【3】一人ひとりが取り組むこと

5つのステップを設け、段階的に取り組めるようにします。

- Step 1 携帯トイレの使い方を知る
- Step 2 自宅等に必要なトイレの備蓄数量を確認する
- Step 3 携帯トイレを最低3日間、推奨7日間分を備蓄する
- Step 4 携帯トイレの備蓄を周囲の人に伝える
- Step 5 年に1回、携帯トイレの備蓄状況を確認する

【4】実施フロー



日本トイレ研究所

理事	加藤 篤	代表	原田雄美	副代表
	上 幸雄	副代表	石川嘉洋	
監事	松村正一	公認会計士		
顧問	小澤紀美子	東京学芸大学 名誉教授	辨野義己	辨野腸内フローラ研究所 理事長
	坂上恭助	明治大学 名誉教授		
アドバイザー	岡城孝雄	岡城技術士事務所 所長	中野美和子	小児外科医
	小原真理子	京都看護大学大学院 教授	森田 昭	元・日本環境衛生センター
	田中一雄	GK デザイン機構 代表取締役社長	吉川羊子	泌尿器科医

賛同人

秋富慎司	金沢医科大学病院 特任教授	阿部一彦	日本身体障害者団体連合会 会長
福井 照	国土強靱化・防災・減災支援機構 理事長	榛沢和彦	新潟大学 特任教授
浅野幸子	減災と男女共同参画研修推進センター共同代表	加藤孝明	東京大学 教授
加藤裕之	中央大学研究開発機構 機構教授	渡邊暁洋	日本災害医療薬剤師学会 会長
山崎宏史	東洋大学 教授	山海敏弘	建築研究所 客員研究員
豊貞佳奈子	福岡女子大学 教授	大塚佳臣	東洋大学 教授
鍵屋 一	福祉防災コミュニティ協会 代表理事	鈴木みゆき	絵本専門士支援協会 代表理事
水谷嘉浩	避難所・避難生活学会 代表理事	木下謙一	ラヌユニテッド 代表取締役
植田信策	日本赤十字社医療事業推進本部 参事監	根本昌宏	日本赤十字北海道看護大学 教授
中久木康一	東北大学大学院 特任講師	菅原健介	ぐるんとびー 代表取締役
中野明安	丸の内総合法律事務所 弁護士	岡山朋子	大正大学 教授
今石佳太	兵庫県立大学大学院 客員研究員	田村 圭子	新潟大学 特任教授
橋本淳司	水ジャーナリスト	玉田太郎	防災士研修センター 代表取締役社長
きたむらけんじ	放送作家	松本知之	マツモトモプロダクツ 代表
光永威彦	明治大学 准教授	石川淳哉	ソーシャルグッドプロデューサー
宮川祥子	慶応義塾大学 教授	阪本真由美	兵庫県立大学大学院 教授
廣井 悠	東京大学 教授	矢野雷太	広島記念病院 消化器外科医長

※順不同・敬称略 2026年6月25日現在

全国 47 都道府県の災害時トイレに関する意識調査

全国47都道府県の 災害時トイレに関する意識調査

2026年6月25日

特定非営利活動法人日本トイレ研究所



調査概要

- 調査目的** : 災害時のトイレ対応および備蓄状況に関する意識の把握
- 調査対象** : 47都道府県・20代～60代・男女
- 調査方法** : インターネット調査
- 調査期間** : 2026年5月12日（火）～2026年5月25日（月）
- 回答数** : 4700サンプル（各都道府県100サンプル）
- 実施主体** : 特定非営利活動法人日本トイレ研究所

※本調査では、小数第2位を四捨五入しています。そのため、数字の合計が100%とならない場合があります。

本件に関するお問い合わせ

特定非営利活動法人日本トイレ研究所

E-mail contact_us@toilet.or.jp

TEL 03-6809-1308

FAX 03-6809-1412

本資料を転載・引用される際は上記までご連絡の上、クレジット表記をお願いいたします。

主な調査結果

- **7割以上が自宅での避難生活を想定しているが、災害用トイレの備蓄をしている人は2割（Q3、Q4）**
 避難生活先として「自宅」を選んだのは74.7%である。一方、「災害用トイレ（携帯トイレ*1・簡易トイレ）」を備えているのは20.6%であり、備えているものとして上位の「懐中電灯・ランタン」「飲料水」であっても全体の半数に満たない。
- **災害用トイレの備蓄率には地域差がみられる（Q4）**
 災害用トイレの備蓄率は全国で20.6%だが、都道府県別で差がみられた。東京都（35.0%）神奈川県（34.0%）、愛知県（32.0%）、大分県（32.0%）、静岡県（31.0%）、大阪府（31.0%）などで、比較的高い傾向である。
- **自宅で困りそうなこと最多は「水洗トイレが使えない」（Q6、Q8）**
 大地震のあと、自宅で困りそうなこととして最も多いのは「水洗トイレが使えない」（62.6%）で、「飲料水がない」（39.4%）など他の選択肢を大きく上回った。一方で、大地震の後、水洗トイレを使うと汚水が溢れたり、逆流したりする危険性を過半数（57.3%）が知らない。
- **災害用トイレを備蓄していても、数量不足・使い方を確認していない人が多い（Q9、Q14）**
 備蓄している災害用トイレの数は、1人当たり「1～5回分」（24.8%）、「6～10回分」（22.0%）が中心で、目安となる備蓄量*2に対して不足している。「何回分かかわからない」（22.2%）も少なくない。また、備蓄している人のうち「使用方法を確認した」は24.2%にとどまり、「購入したまま、確認していない」も59.9%となっている。
- **備蓄にあたっての情報不足が課題（Q11、Q12）**
 災害用トイレの適切な備蓄量の目安については「わからない」が最多の42.3%であった。災害用トイレを備蓄していない理由として、「どのくらい備蓄すればよいかかわからない」18.9%、「どの製品を購入すればよいかかわからない」18.8%が上位に挙がり、情報不足が課題となっている。

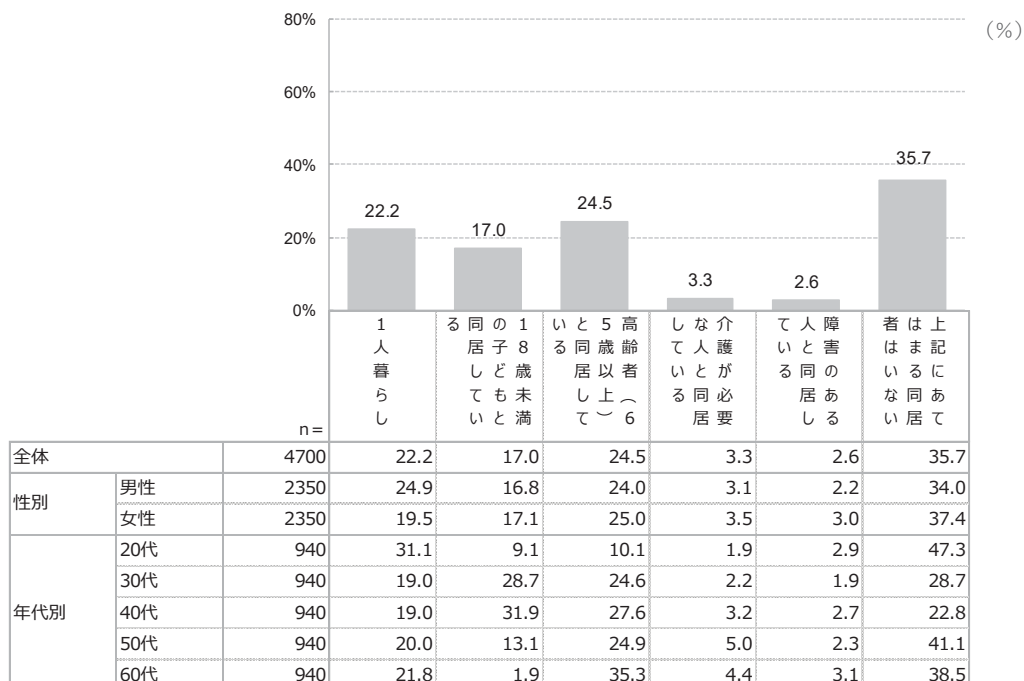
*1 携帯トイレ：断水や排水不可となった際に、洋式便器等に設置して使用する袋タイプのトイレを指す

*2 「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」（内閣府（防災担当））では、トイレの平均的な使用回数を1日5回（目安）としている。また「防災基本計画」（中央防災会議）では、「最低3日間、推奨1週間」分の食料、飲料水、携帯トイレ・簡易トイレ、トイレトイレットペーパー等の備蓄等について、国（内閣府等）、公共機関、地方公共団体等が普及啓発を図るとしている。

同居者について

Q1. 現在、あなたと同居している方について、当てはまるものを全て選んでください。（MA）

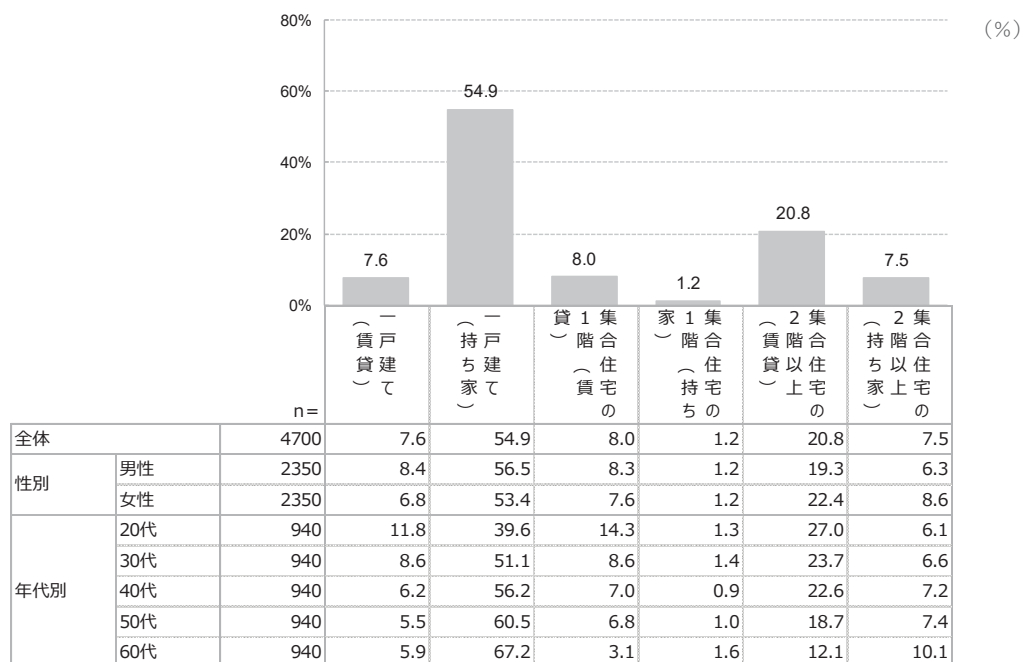
- ・「1人暮らし」は22.2%、「18歳未満の子供と同居している」は17.0%、「高齢者（65歳以上）と同居している」は24.5%である。



住宅について

Q2. あなたのお住まいの住宅について、選択肢から一つ選んでください。（S A）

・最も多いのは「一戸建て（持ち家）」54.9%、次いで「集合住宅の2階以上（賃貸）」20.8%である



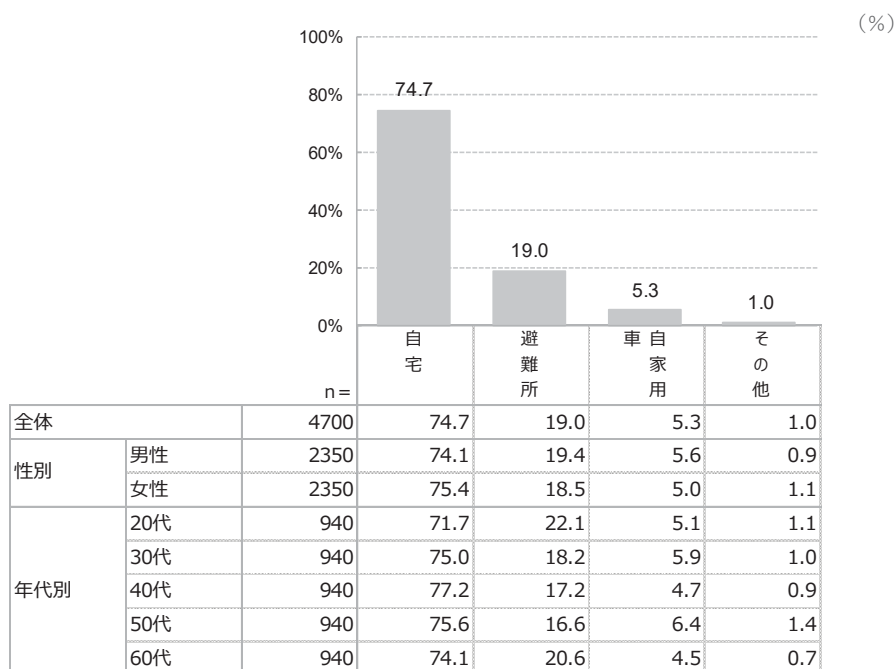
© NPO Japan Toilet Labo.

5

停電・断水時の避難生活場所

Q3. 大地震で地域全体が停電・断水している時、あなたはどちらでの避難生活を選びますか。（S A）

・「自宅」74.7%、「避難所」19.0%、「自家用車」5.3%である。



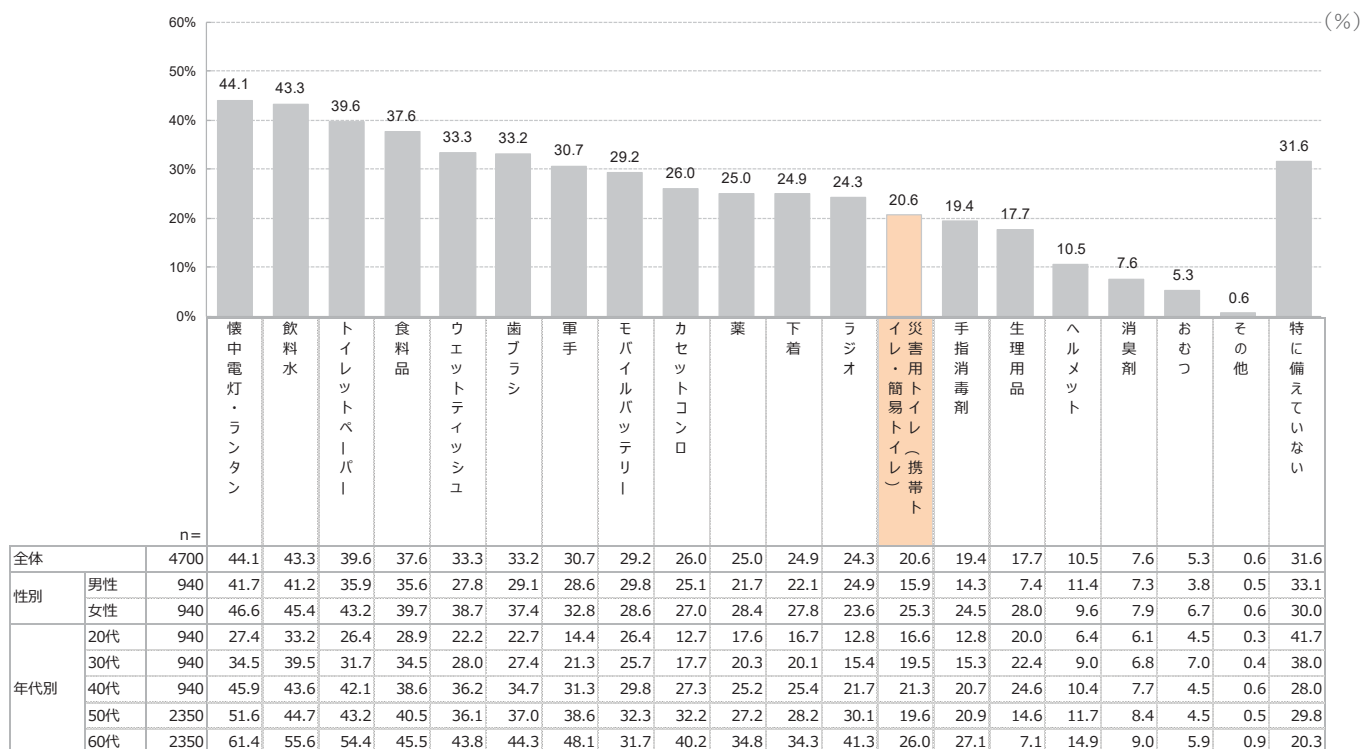
© NPO Japan Toilet Labo.

6

自宅に備えている防災用品

Q4. あなたが現在、防災用として自宅に備えているものを全てお選びください。(MA)

・最も多いのは「懐中電灯・ランタン」44.1%、次いで「飲料水」43.3%である。「災害用トイレ」は20.6%である。



© NPO Japan Toilet Labo.

7

災害用トイレ（携帯トイレ・簡易トイレ）の備蓄割合

Q4. あなたが現在、防災用として自宅に備えているものを全てお選びください。(MA) (災害用トイレ)

・「災害用トイレ（携帯トイレ・簡易トイレ）」を備えている人は全国平均では20.6%、都道府県別では以下の通りである。

順位	都道府県	割合 (%)
1	東京都	35.0
2	神奈川県	34.0
3	愛知県	32.0
3	大分県	32.0
5	静岡県	31.0
5	大阪府	31.0
7	長野県	28.0
8	兵庫県	26.0
8	香川県	26.0
8	高知県	26.0
11	千葉県	25.0
11	山梨県	25.0
13	宮城県	24.0
13	埼玉県	24.0
13	石川県	24.0
13	福井県	24.0

順位	都道府県	割合 (%)
13	徳島県	24.0
18	滋賀県	23.0
18	奈良県	23.0
18	熊本県	23.0
18	宮崎県	23.0
22	岐阜県	20.0
23	青森県	19.0
23	栃木県	19.0
23	新潟県	19.0
26	茨城県	18.0
26	三重県	18.0
26	和歌山県	18.0
26	山口県	18.0
30	北海道	17.0
30	広島県	17.0
32	岩手県	16.0

順位	都道府県	割合 (%)
32	鳥取県	16.0
32	福岡県	16.0
32	沖縄県	16.0
36	山形県	15.0
36	京都府	15.0
36	愛媛県	15.0
39	福島県	14.0
39	富山県	14.0
41	群馬県	13.0
41	岡山県	13.0
43	秋田県	12.0
43	佐賀県	12.0
43	鹿児島県	12.0
46	島根県	11.0
46	長崎県	11.0

(各都道府県 n=100)

© NPO Japan Toilet Labo.

8

飲料水の備蓄割合

Q4. あなたが現在、防災用として自宅に備えているものを全てお選びください。(MA) (飲料水)

・「飲料水」を備えている人は全国平均では43.3%、都道府県別では以下の通りである。

順位	都道府県	割合 (%)
1	静岡県	56.0
2	東京都	53.0
2	埼玉県	53.0
2	徳島県	53.0
5	大阪府	52.0
6	愛知県	51.0
6	三重県	51.0
8	香川県	50.0
8	高知県	50.0
10	石川県	49.0
11	神奈川県	48.0
11	千葉県	48.0
11	奈良県	48.0
11	和歌山県	48.0
11	広島県	48.0
16	宮城県	47.0

順位	都道府県	割合 (%)
17	兵庫県	46.0
18	大分県	45.0
18	熊本県	45.0
18	宮崎県	45.0
18	青森県	45.0
18	栃木県	45.0
18	茨城県	45.0
24	山梨県	43.0
25	長野県	42.0
25	滋賀県	42.0
25	新潟県	42.0
25	岩手県	42.0
25	京都府	42.0
25	群馬県	42.0
31	秋田県	41.0
32	福井県	40.0

順位	都道府県	割合 (%)
32	岐阜県	40.0
32	福岡県	40.0
32	愛媛県	40.0
36	福島県	39.0
37	沖縄県	38.0
38	山口県	37.0
38	鹿児島県	37.0
40	佐賀県	36.0
40	島根県	36.0
40	長崎県	36.0
43	山形県	34.0
43	岡山県	34.0
45	北海道	32.0
46	富山県	31.0
47	鳥取県	29.0

(各都道府県 n=100)

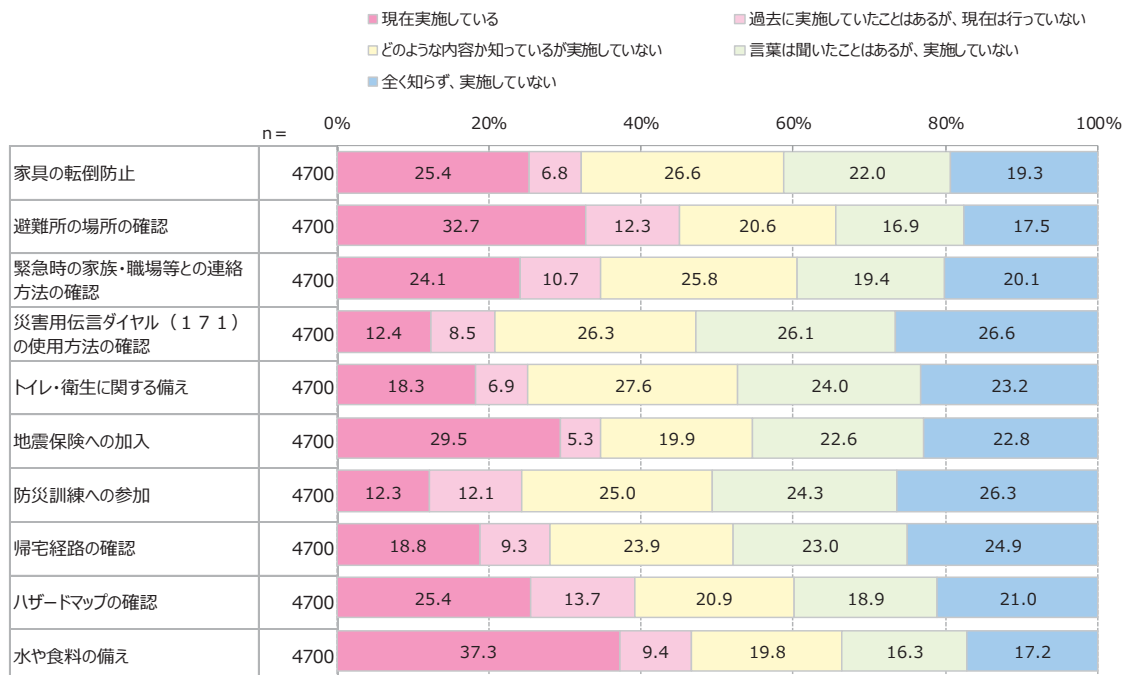
© NPO Japan Toilet Labo.

9

防災に関連した行動の実施状況

Q5. 以下の防災に関する事柄について、それぞれ当てはまるものをお選びください。(SA)

・「どのような内容知っているが実施していない」は「トイレ・衛生に関する備え」が最も多く27.6%である。



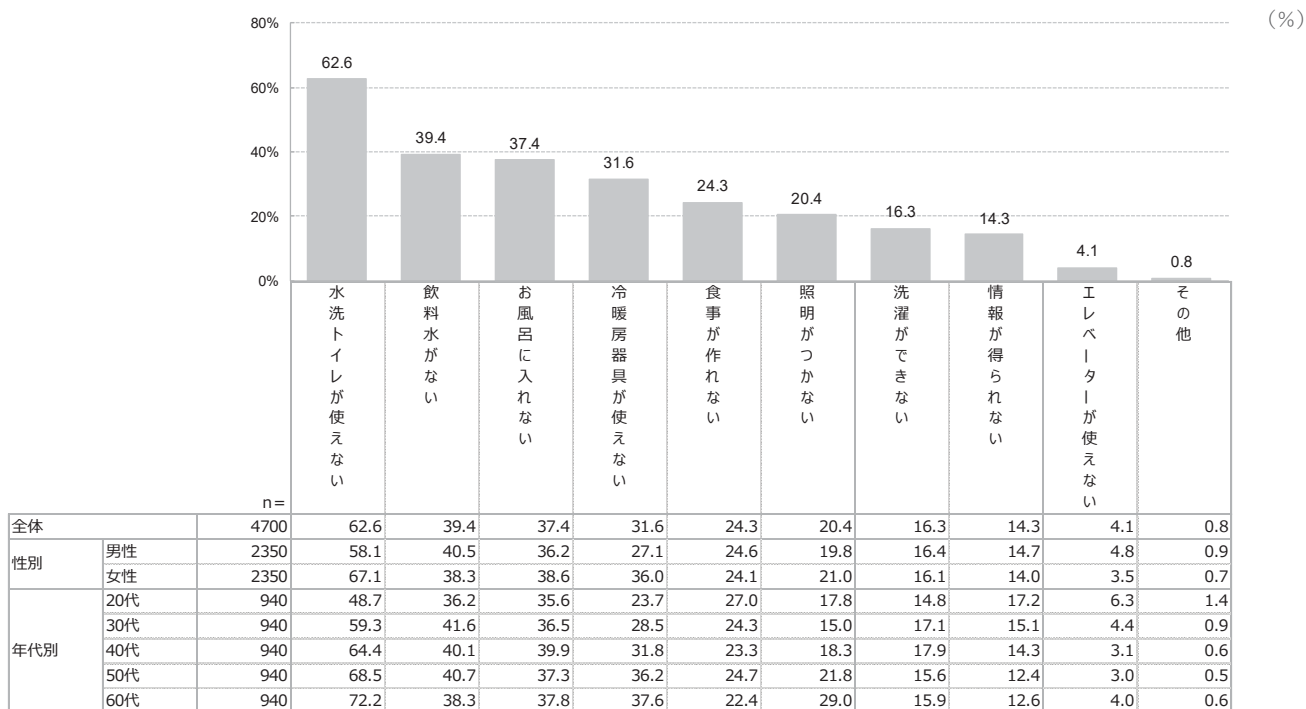
© NPO Japan Toilet Labo.

10

震災時、自宅生活で困りそうなこと

Q6. 大地震のあと、自宅で数日間生活するとした場合、困りそうなことは何ですか？
特にあてはまるものを選んでください。（MA）

・最も多いのは「水洗トイレが使えない」62.6%である。



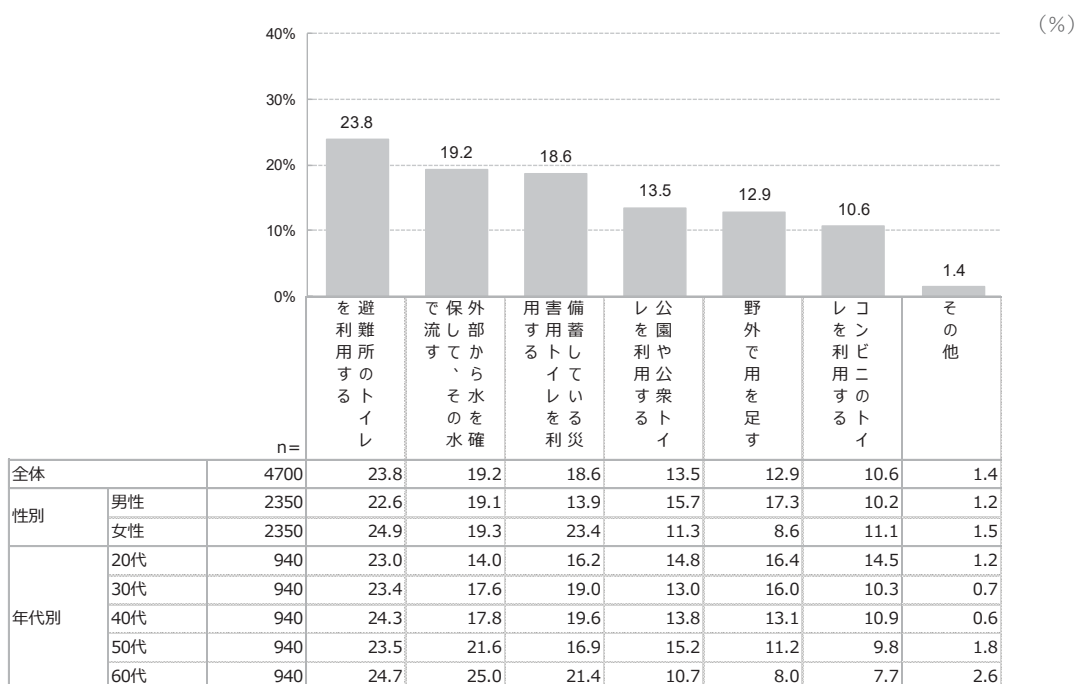
© NPO Japan Toilet Labo.

11

震災時、水洗トイレ使用ができない場合の行動

Q7. 大地震が発生し、断水により自宅の水洗トイレが使用できなくなった場合、あなたはどのようにしますか。最もあてはまるものを1つお選びください。（SA）

・「避難所のトイレを利用する」は23.8%、「外部から水を確保して、その水で流す」は19.2%、「備蓄している災害用トイレを利用する」は18.6%である。



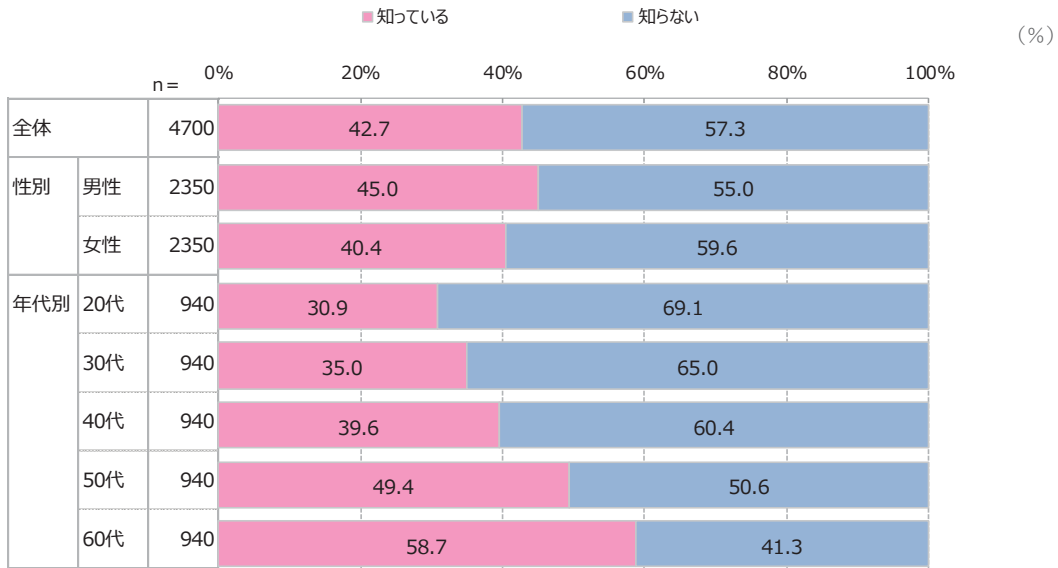
© NPO Japan Toilet Labo.

12

震災時、汚水が溢れる・逆流する危険性の認知

Q8. あなたは大地震の影響でトイレの排水管が壊れている場合に、水洗トイレを使うと汚水が溢れたり、逆流したりする危険性がある事を知っています。(SA)

- ・「知っている」42.7%、「知らない」57.3%である。
- ・「知っている」割合は、50代・60代が全体に比べて高く、60代が最多の58.7%である。

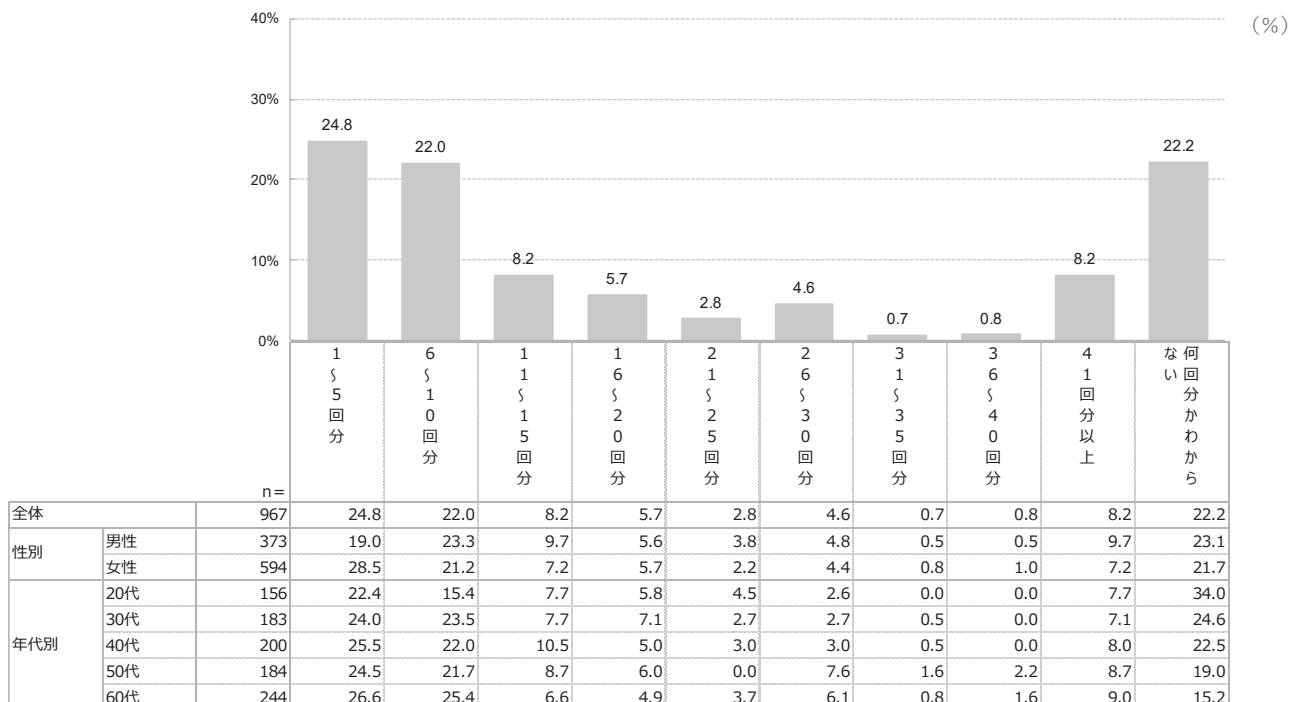


© NPO Japan Toilet Labo.

備蓄している災害用トイレの数

Q9. 災害用トイレを備蓄している人にお聞きます。備蓄している数量はおおよそ何回分ですか？1人当たりの数量でお答えください。(SA)

- ・災害用トイレを備蓄している数量は「1~5回分」24.8%、「6~10回分」22.0%、「何回分かわからない」22.2%である。

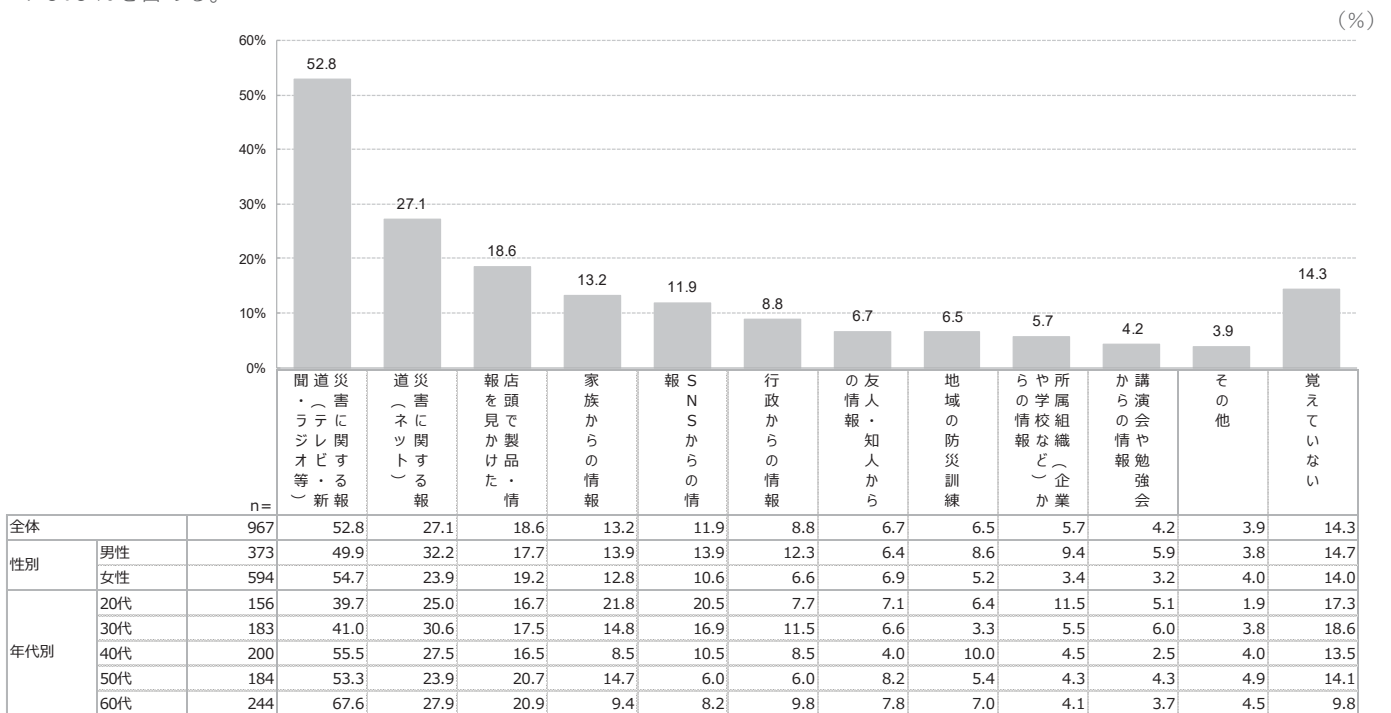


© NPO Japan Toilet Labo.

災害用トイレ備蓄のきっかけ

Q10. 災害用トイレを備蓄している人にお聞きします。備蓄をした主なきっかけは何でしたか？あてはまるものをすべてお選びください。（MA）

・最も多いのは「災害に関する報道（テレビ・新聞・ラジオ等）」52.8%である。「災害に関する報道（ネット）」とあわせると、79.9%を占める。



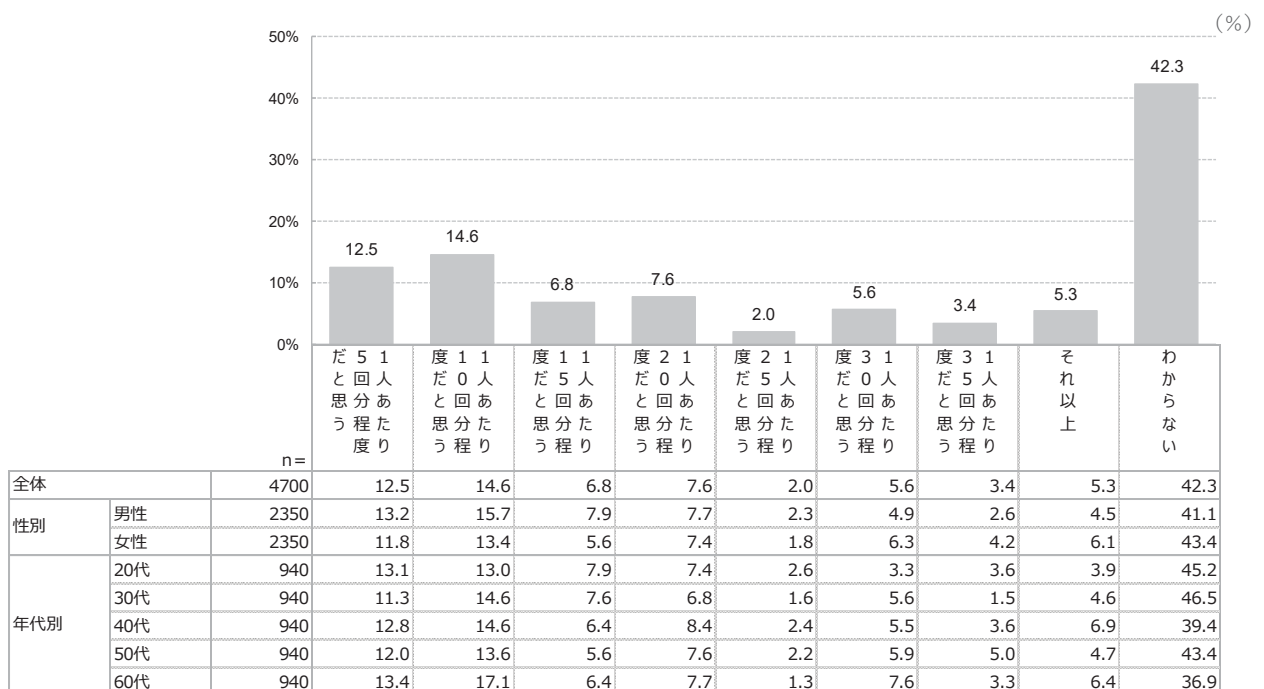
© NPO Japan Toilet Labo.

15

適切な備蓄量についての認識

Q11. 災害用トイレ（携帯トイレ・簡易トイレ）の適切な備蓄量の目安はどのくらいだと思いますか？最もあてはまるものを1つ選んでください。（SA）

・最も多いのは「わからない」42.3%、次いで「1人あたり10回程度だと思う」14.6%である。



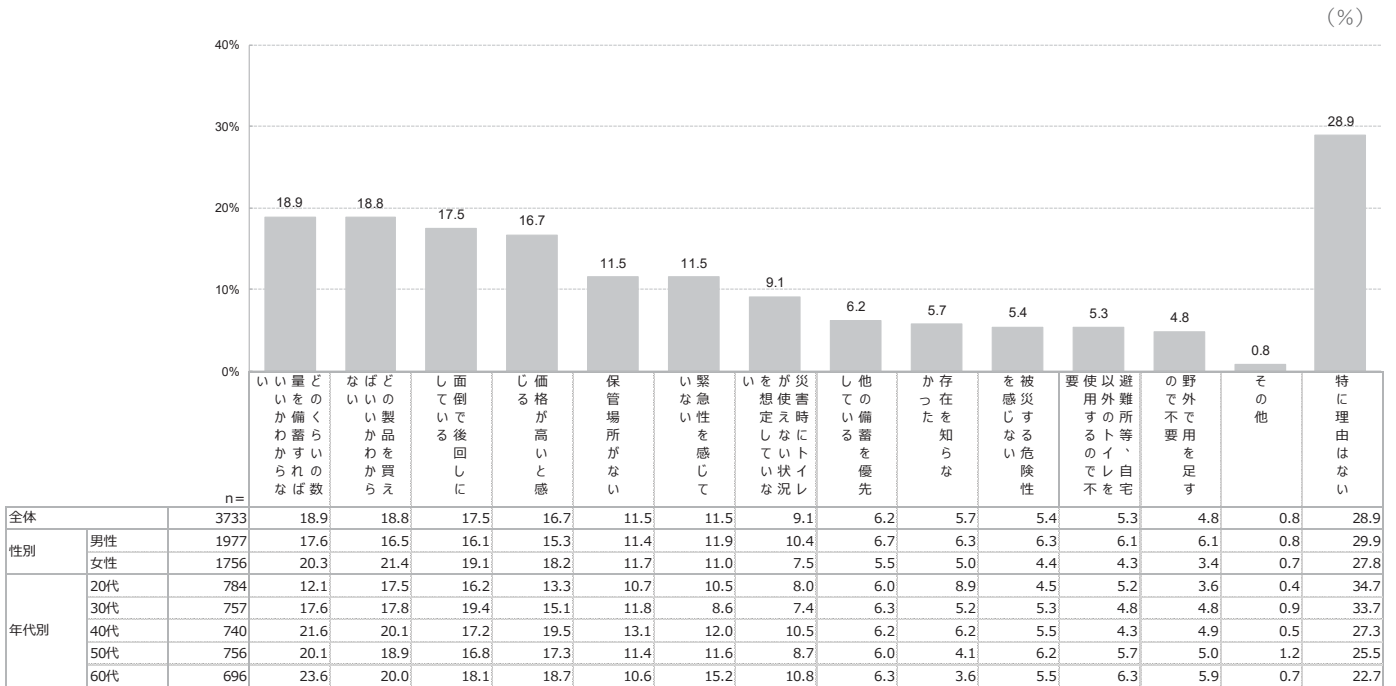
© NPO Japan Toilet Labo.

16

備蓄していない理由

Q12. 災害用トイレ（携帯トイレ・簡易トイレ）の備蓄をしていない人にお聞きします。
備蓄をしていない理由として該当するものをすべてお選びください。（MA）

・最も多いのは「特に理由はない」28.9%、次いで「どのくらいの数量を備蓄すればいいかわからない」18.9%、「どの製品を買えばいいかわからない」18.8%である。

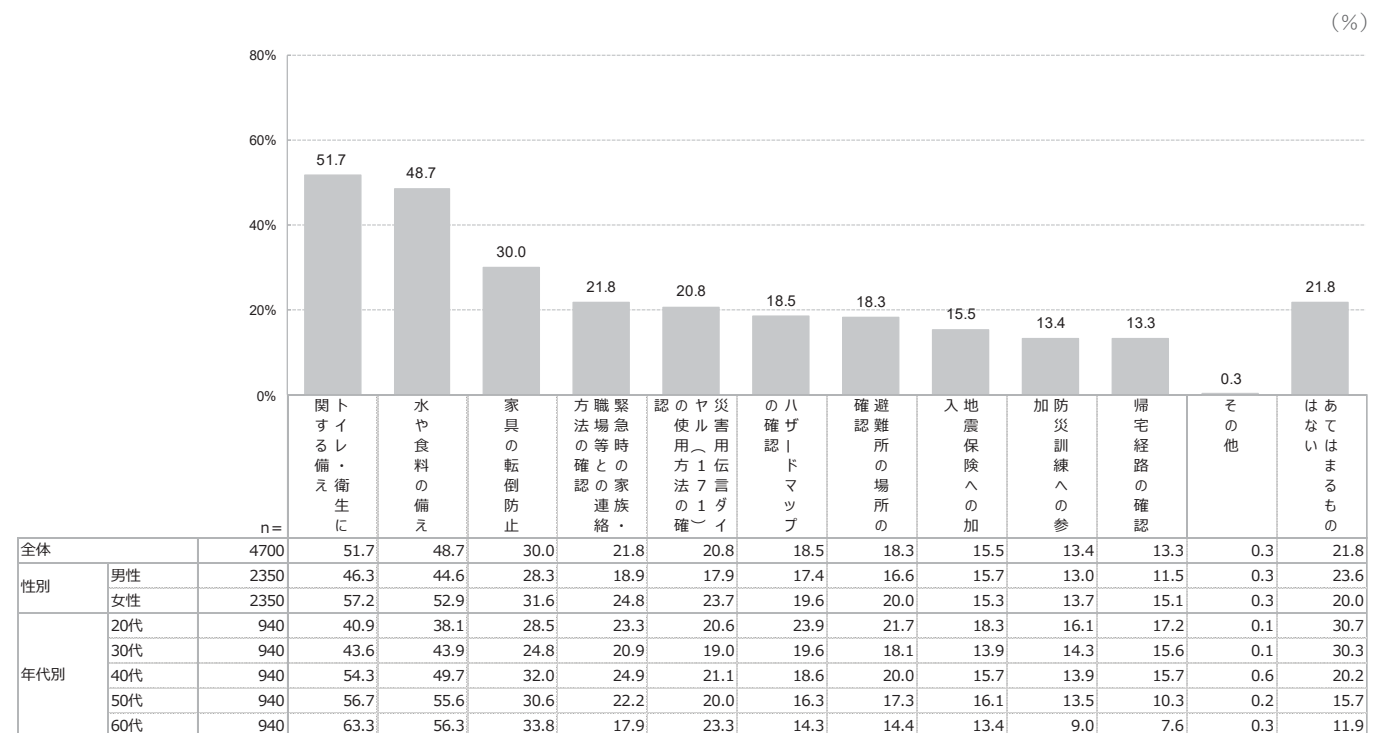


© NPO Japan Toilet Labo.

準備不足を感じるもの

Q13. 今、災害が起きたとして、準備が足りていないと思うものをすべてお選びください。（MA）

・最も多いのは「トイレ・衛生に関する備え」51.7%、次いで「水や食料の備え」48.7%である。

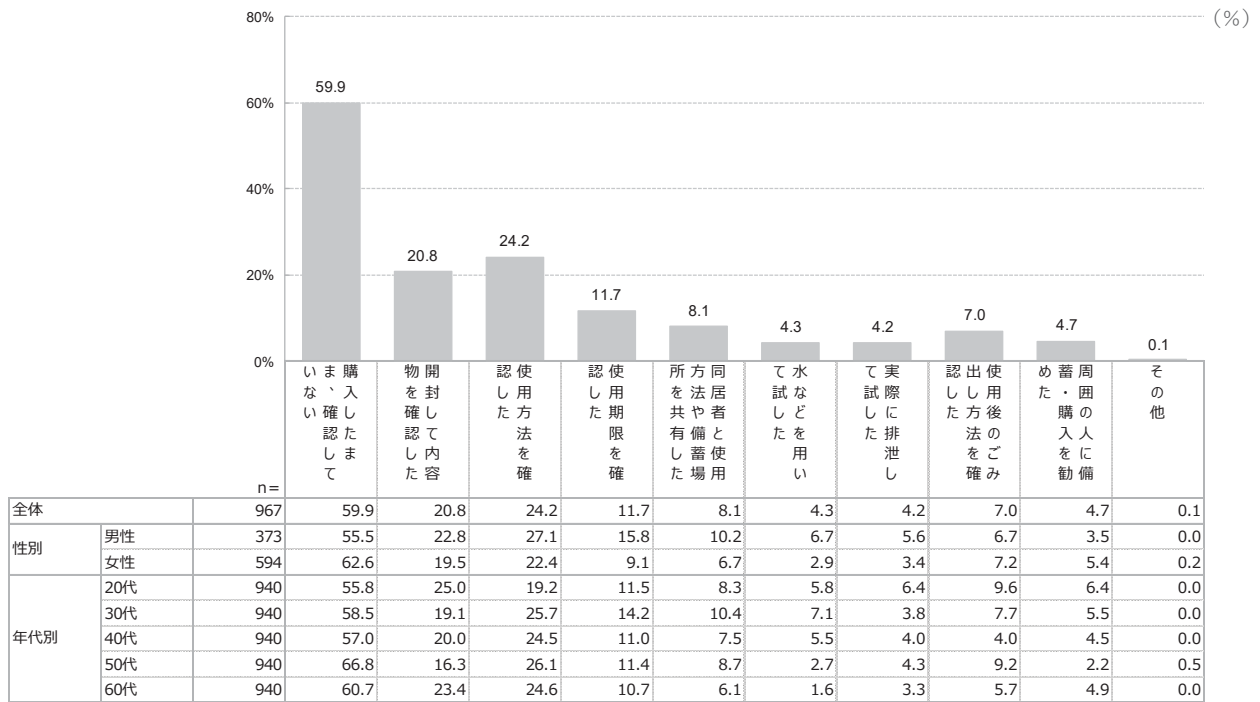


© NPO Japan Toilet Labo.

災害用トイレ購入後の対応

Q14. 災害用トイレ（携帯トイレ、簡易トイレ）を備蓄している人にお聞きします。
あてはまるものをすべて選んでください。（MA）

・「購入したまま、確認していない」が59.9%である。



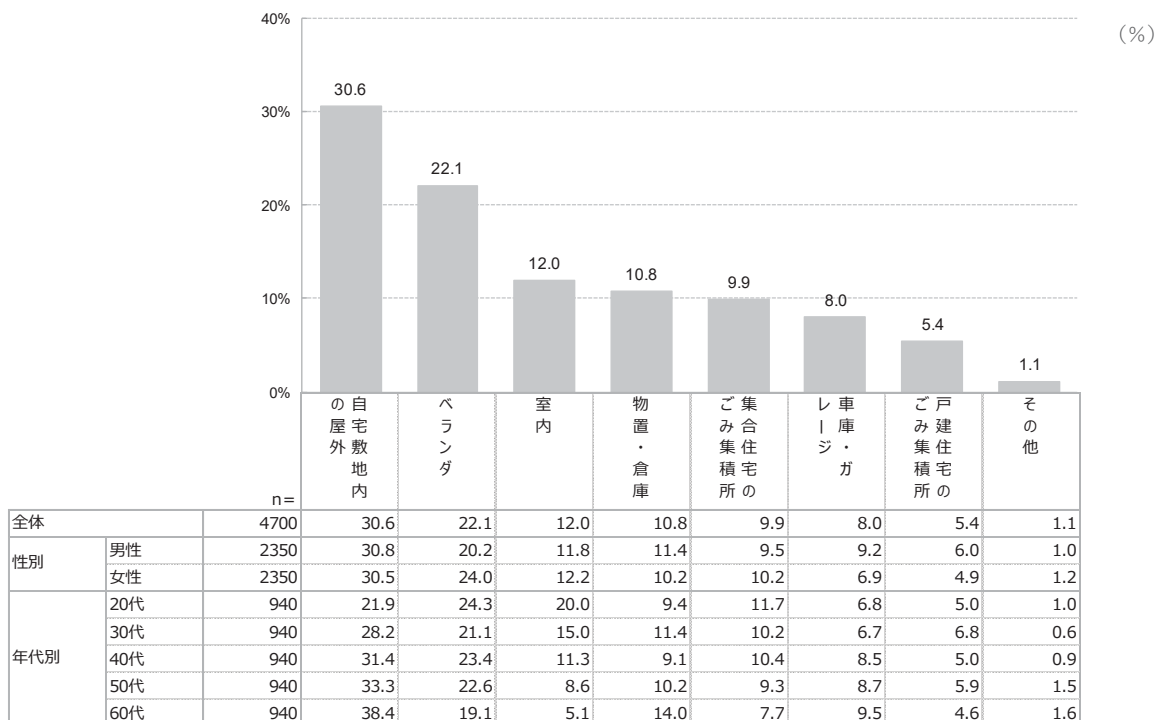
© NPO Japan Toilet Labo.

19

使用後の災害用トイレのごみ置き場

Q15. 災害時は、ごみ収集がすぐに来ないことが予想されます。使用後の災害用トイレ（携帯トイレ・簡易トイレ）のごみを主にどこに溜めておこうと思いますか？（SA）

・最も多いのは「自宅敷地内の屋外」30.6%、次いで「ベランダ」22.1%である。



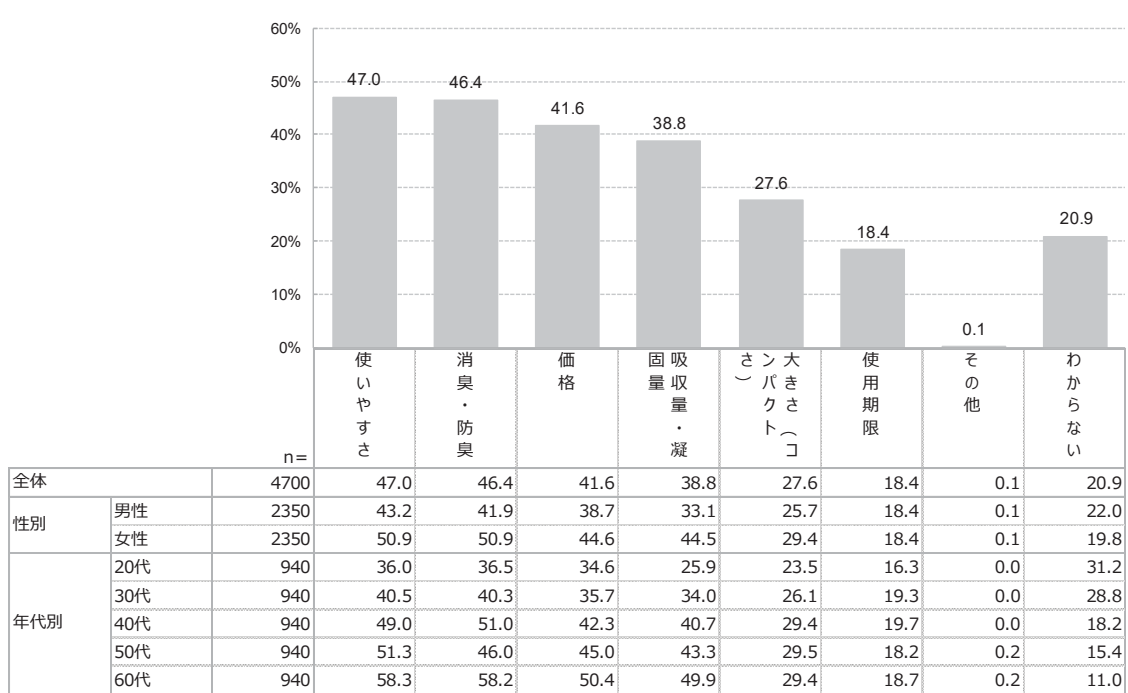
© NPO Japan Toilet Labo.

20

携帯トイレを購入する際に重視すること

Q16. 携帯トイレを購入する際に、どんなことを重視しますか？あてはまるものを全て選んでください。（MA）

・最も多いのは「使いやすさ」47.0%、「消臭・防臭」46.4%、次に「価格」41.6%である。



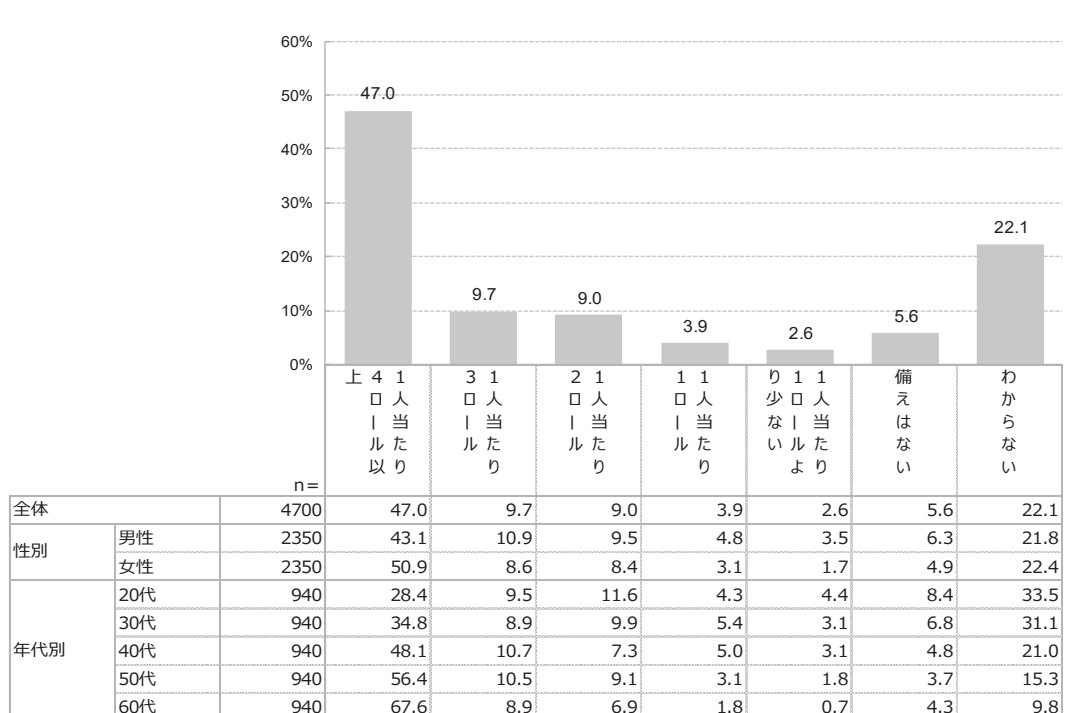
※携帯トイレ：断水や排水不可となった際に、洋式便器等に設置して使用する袋タイプのトイレを指す

© NPO Japan Toilet Labo.

トイレトペーパーの備蓄量

Q17. トイレトペーパーは普段、どのくらい自宅に備えてありますか？（SA）

・最も多いのは「1人当たり4ロール以上」47.0%である。

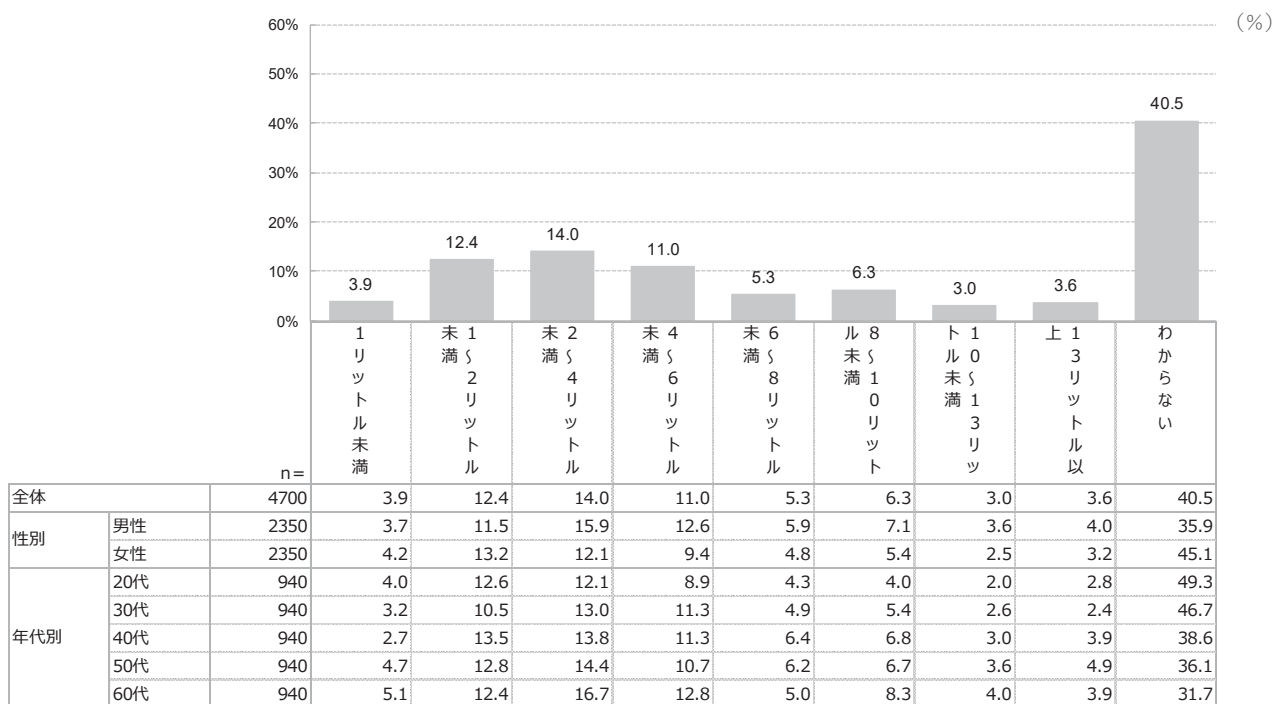


© NPO Japan Toilet Labo.

水洗トイレ洗浄水の量

Q18. 家庭用水洗トイレで大便後に流れる水の量は1回あたり何リットルだと思いますか？（SA）

・最も多いのは「わからない」40.5%である。



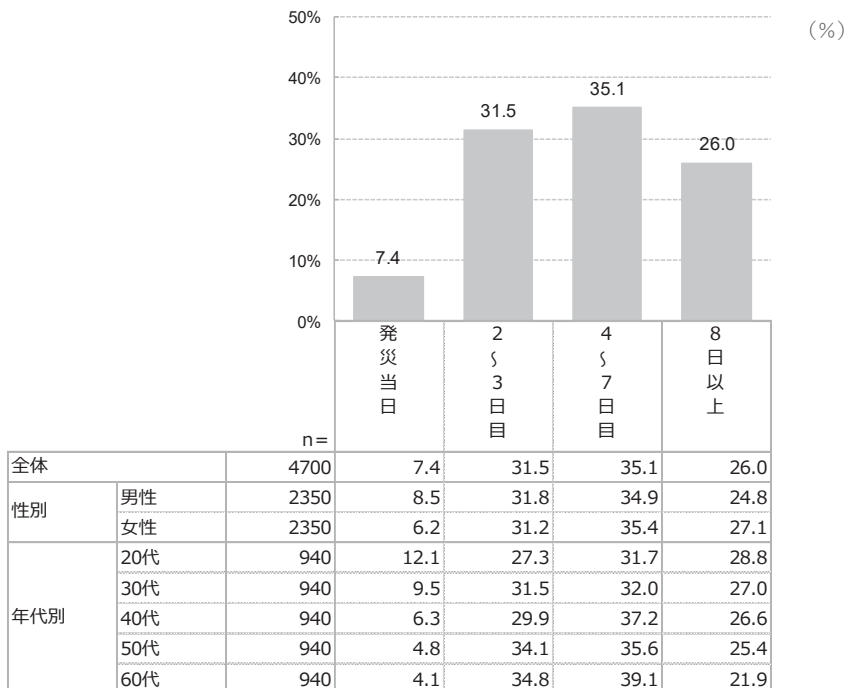
© NPO Japan Toilet Labo.

23

外部からトイレの支援が届くまでの期間

Q19. 大地震のあと、被災地の外部からトイレの支援（仮設トイレ・トイレカー等）が届くまでに、どのくらいの期間がかかるとお考えですか？（SA）

・最も多かったのは「4〜7日」35.1%、次いで「2〜3日目」31.5%である。



© NPO Japan Toilet Labo.

24

不安に思っていること・知りたいこと

Q20. 災害時のトイレや排泄に関して、不安に思っていることや知りたいことをご記入ください。(FA)

回答は「衛生面への不安」、「臭い・排泄物処理への不安」、「必要な備蓄量がわからない」「復旧までの期間がわからない」「何が課題かわからない」「プライバシーへの不安」等に分類できる。

また、「生理への不安」「健康・体調面への不安」についても一定数の回答がある。

n=4700

主な内容

「衛生面への不安」

- ・ 不衛生になりそう
- ・ 手が洗えないことが不安

「何が課題かわからない」

- ・ 想像ができない
- ・ 何を聞けばいいかわからない

「臭い・排泄物処理への不安」

- ・ 臭いが気になる
- ・ 排泄物をどこに捨てるのかわからない
- ・ 保管方法を知りたい

「プライバシーへの不安」

- ・ 周囲の目が気になる
- ・ プライバシーが守られるか
- ・ 男女混合はいやだ

「必要な備蓄量がわからない」

- ・ 携帯トイレは何日分あればいいのか
- ・ 一人あたりどれくらい必要か

「生理への不安」

- ・ 生理になったら困る
- ・ 生理用品をどう処理するのかわからない

「復旧までの期間がわからない」

- ・ 水洗トイレが使えるまでの日数
- ・ 下水管が壊れたらどれくらいかかるか

「健康・体調面への不安」

- ・ 普段からトイレが近い
- ・ 下痢気味なので困る
- ・ 我慢して体調を崩しそう

© NPO Japan Toilet Labo.

25

まとめ

特定非営利活動法人日本トイレ研究所

本調査の結果、大地震による停電・断水時の避難生活先として「自宅」を選んだ人は74.7%に達し、多くの人が在宅避難を想定している。一方で、自宅に「災害用トイレ（携帯トイレ・簡易トイレ）」を備蓄している人は20.6%にとどまり、在宅避難を支えるためのトイレ対策が進んでいない実態が明らかとなった。トイレ以外の備えについても十分とはいえない状況である。

災害用トイレの備蓄率は全国で20.6%だが、東京都（35.0%）、神奈川県（34.0%）、愛知県（32.0%）、大分県（32.0%）、静岡県（31.0%）、大阪府（31.0%）などでは比較的、高い傾向にある。都市部では在宅避難についての情報接触が多いことが影響している可能性がある。

また大地震の影響でトイレの排水管が壊れている場合に、水洗トイレを使うと汚水が溢れたり、逆流したりする危険性があることについて「知らない」が過半数の57.3%で、若年層ほど全体に比べて「知らない」とした割合が多い。

一方で、災害用トイレを備蓄している場合にも課題がある。備蓄している数量については「1～5回分」24.8%、「6～10回分」22.0%で、あわせて約半数を占める。国のガイドライン等*では、1人1日5回分を目安として「最低3日間分、推奨1週間分」の備蓄が推奨されており、十分な数量とはいえない。また、使い方等を事前に確認しておくことも、発災時に衛生状態を保つためには欠かせないが、備蓄している人のうち「購入したまま、確認していない」が59.9%となっており、備蓄しても十分に活用できる状態となっていない。

災害用トイレは水・食料と違って使用した経験がない人がほとんどであり、自由回答においても、何をどう準備したらいいかわからないという課題も浮き彫りになっている。一方で、災害時のトイレ環境が衛生・健康と直結するという意識もある。

日本トイレ研究所では、災害時に自身や周りの人の健康を守るため、自助としての携帯トイレの備えの必要性を呼びかけるとともに、事前に使い方や扱いやすさを確認してもらうための啓発活動を行っていきたく考える。

*「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」（内閣府（防災担当））では、トイレの平均的な使用回数を1日5回（目安）としている。また「防災基本計画」（中央防災計画）では、「最低3日間、推奨1週間」分の食料、飲料水、携帯トイレ・簡易トイレ、トイレトイレットペーパー等の備蓄等について、国（内閣府等）、公共機関、地方公共団体等が普及啓発を図るとしている。

© NPO Japan Toilet Labo.

26

命を守るトイレ備蓄プロジェクト

日本トイレ研究所では、災害時のトイレ問題を解決するため、自助としてトイレを備える行動を喚起することを目的として、「命を守るトイレ備蓄プロジェクト」を立ち上げます。災害時に水洗トイレが使えなくなったときの備えの第一歩として「携帯トイレ*の備蓄」を呼びかけます。これをきっかけにトイレ対応の自助力を高め、災害関連死ゼロを目指します。

*携帯トイレ：断水や排水不可となった洋式便器等に設置して使用する袋タイプのトイレ

参考 携帯トイレに関する規格適合評価

災害時に安心して使うことができる携帯トイレを選ぶために規格Ver.1.0（構造、性能、表示）を作成し、適合評価を実施しています。性能に関しては、人工尿400mLを吸収できることを必須にしています。試験方法など規格の詳細や規格適合製品リストなどは右記の二次元コードからご確認ください。ぜひ携帯トイレを備える際の参考にしてください。



https://www.toilet.or.jp/activities/keitaitoilet_standard/



日本トイレ研究所は「トイレ」を通して社会をより良い方向へ変えていくことをコンセプトに活動しているNPO団体です。

阪神淡路大震災を契機として、災害時のトイレ問題に本格的に取り組んでいます。

自治体と共同でフォーラムの開催や災害時のトイレに関するアンケート調査、被災地におけるトイレの調査の実施、「災害時トイレ衛生管理講習会」開催と「防災トイレアドバイザー」養成といった人材育成、ポスター・小冊子の作成等の啓発活動を行っています。

© NPO Japan Toilet Labo.

参考資料

携帯トイレに関する規格適合製品リスト（1/4）

日本トイレ研究所では、災害時に安心して使うことができる携帯トイレを選ぶために規格を作成し、適合評価を実施しています。規格に適合した製品のリストを公開しておりますので、携帯トイレを選ぶ際の参考にしてください。

*携帯トイレとは、断水や排水不可となった洋式便器等に設置して使用する袋タイプのトイレを指します。

ウェブサイトにてご覧いただけます



2026年6月23日現在



企業	株式会社ケンコー
製品	ベンリー袋防臭袋プラス
適合評価番号	25-0001
適合評価日	2025年8月18日
規格のバージョン	Ver.1.0
吸収剤の形状	凝固剤
評価項目	構造：適合 吸収：適合 防臭：適合 表示：適合



企業	株式会社総合サービス
製品	「サニタクリーン便袋（簡単トイレ等）」シリーズ
適合評価番号	25-0002
適合評価日	2025年8月18日
規格のバージョン	Ver.1.0
吸収剤の形状	吸収シート
評価項目	構造：適合 吸収：適合 防臭：適合 表示：適合



企業	株式会社セットアップ横浜
製品	はばか郎（5回・10回・20回・100回）
適合評価番号	25-0003
適合評価日	2025年8月18日
規格のバージョン	Ver.1.0
吸収剤の形状	凝固剤
評価項目	構造：適合 吸収：適合 防臭：適合 表示：適合

携帯トイレに関する規格適合製品リスト (2/4)



企業	シエラ株式会社
製品	ホスケアトイレ抗菌
適合評価番号	25-0004
適合評価日	2025年9月17日
規格のバージョン	Ver.1.0
吸収剤の形状	吸収シート
評価項目	構造：適合 吸収：適合 防臭：適合 表示：適合



企業	株式会社ニード
製品	災害用排便処理袋セット、レリーフバックコンパクト、P型袋セット
適合評価番号	25-0005
適合評価日	2025年10月15日
規格のバージョン	Ver.1.0
吸収剤の形状	吸収シート
評価項目	構造：適合 吸収：適合 防臭：適合 表示：適合



企業	株式会社ニード
製品	災害用トイレ処理セット、防災簡易トイレパック、凝固・衛生袋セット
適合評価番号	25-0006
適合評価日	2025年10月15日
規格のバージョン	Ver.1.0
吸収剤の形状	凝固剤
評価項目	構造：適合 吸収：適合 防臭：適合 表示：適合



企業	株式会社キガ
製品	コンポストイレ (20回分)
適合評価番号	25-0007
適合評価日	2025年12月3日
規格のバージョン	Ver.1.0
吸収剤の形状	凝固剤
評価項目	構造：適合 吸収：適合 防臭：- 表示：適合

携帯トイレに関する規格適合製品リスト (3/4)



企業	無臭元工業株式会社
製品	ニオイもムシも出ない携帯トイレ「ムシュウレット」
適合評価番号	25-0008
適合評価日	2025年12月3日
規格のバージョン	Ver.1.0
吸収剤の形状	凝固剤
評価項目	構造：適合 吸収：適合 防臭：適合 表示：適合



企業	スターライト工業株式会社
製品	携帯用クイックトイレ
適合評価番号	25-0009
適合評価日	2025年12月19日
規格のバージョン	Ver.1.0
吸収剤の形状	凝固剤
評価項目	構造：適合 吸収：適合 防臭：適合 表示：適合



企業	株式会社香彩堂
製品	コンパクトトイレ100回B
適合評価番号	25-0010
適合評価日	2026年2月26日
規格のバージョン	Ver.1.0
吸収剤の形状	凝固剤
評価項目	構造：適合 吸収：適合 防臭：適合 表示：適合



企業	株式会社ケンコー
製品	ペンリー袋G
適合評価番号	25-0011
適合評価日	2026年3月13日
規格のバージョン	Ver.1.0
吸収剤の形状	凝固剤
評価項目	構造：適合 吸収：適合 防臭：適合 表示：適合

携帯トイレに関する規格適合製品リスト (4/4)



企業 株式会社総合サービス
製品 サニタクリーンIII シリーズ
適合評価番号 25-0012
適合評価日 2026年3月26日
規格のバージョン Ver.1.0
吸収剤の形状 吸収シート
評価項目 構造：適合 | 吸収：適合 | 防臭：適合 | 表示：適合



企業 株式会社MOSHIMO HACK
製品 モシモハック 非常用トイレ (凝固剤タイプ)
適合評価番号 25-0013
適合評価日 2026年3月31日
規格のバージョン Ver.1.0
吸収剤の形状 凝固剤
評価項目 構造：適合 | 吸収：適合 | 防臭：適合 | 表示：適合



企業 株式会社MOSHIMO HACK
製品 モシモハック 非常用トイレ (シートタイプ)
適合評価番号 25-0014
適合評価日 2026年3月31日
規格のバージョン Ver.1.0
吸収剤の形状 吸収シート
評価項目 構造：適合 | 吸収：適合 | 防臭：適合 | 表示：適合



企業 シエラ株式会社
製品 ホスケアトイレ
適合評価番号 26-0015
適合評価日 2026年4月21日
規格のバージョン Ver.1.0
吸収剤の形状 吸収シート
評価項目 構造：適合 | 吸収：適合 | 防臭：適合 | 表示：適合

下水道展
'26東京

災害時のトイレ 下水道フォーラム

～災害時のトイレの質をマンホールトイレから考える～

日 時 8月7日(金) 13:00～16:00
会 場 東京ビッグサイト
参 加 費 無料
主 催 公益社団法人日本下水道協会
企画・運営 特定非営利活動法人日本トイレ研究所
申 込 <https://www.toilet.or.jp/studies-forums/gesuidouten2026/>

詳細・お申込はこちら



防災トイレフォーラム2026 in 四日市

全員参加で取り組むトイレ対策

～災害時のトイレの備えから使用・管理・処理までを考える～

日 時 10月16日(金) 13:00～16:00
会 場 四日市市文化会館
参加費 無料
主 催 特定非営利活動法人日本トイレ研究所
(災害用トイレ普及・推進チーム)
共 催 四日市市
協 力 三重県(予定)
申 込 準備ができ次第、HP等でご案内申し上げます



2026年度 日本トイレ大賞 募集中

日本トイレ大賞は、トイレ・排泄に関する課題解決への取り組みを表彰します。
 災害時のトイレ環境、学校・地域・公共のトイレ環境、インクルーシブなトイレ環境の課題など、
 トイレ・排泄に関する課題に向き合う取り組みをご応募ください。
 自治体、そして地域で活動されている皆様からのご応募をお待ちしております。

応募締切 2026年8月31日(月)
 対象 国内において、トイレ環境・排泄に真摯に向き合う魅力的な
 取り組みで、現在も継続的に行っているもの。
 受賞者発表 11月予定



詳細・ご応募はこちら



災害用トイレガイド

災害用トイレ・衛生製品の選び方



25社67製品
 公開中!!

ほかにも・・・

アーカイブ
 災害時のトイレ事情

災害用トイレの特徴

災害用トイレの
 選び方Q&A

自治体のトイレ対策例

災害用トイレ PH

寸法(幅型)	約565 × 360 × 465mm
寸法(バックケース)	約565 × 360 × 465mm
重量(幅型)	約16kg(1箱)
重量(バックケース)	約16kg(1箱)
	・サンタクリーン濃液 200枚





災害時、
安心して使える携帯トイレを
選びましょう

携帯トイレに関する規格適合製品リスト

災害時トイレの初動対応として有効な「携帯トイレ」の規格適合評価
規格に適合した製品のリスト、規格の詳細を公開中

ウェブページはこちら



災害時のトイレ(T)・食事(K)・睡眠(B)を学べるデジタル教材

ウェブページはこちら

- ・主体的に気づき、考える「間違い探し型」教材
- ・避難所／在宅避難／車中避難の3つの場面で総合的に学べる
- ・ワークシートや指導マニュアル付で、地域の防災活動に使える



<https://www.toilet.or.jp/disaster-tkb/>

携帯トイレの使い方 ポスター・マニュアル

携帯トイレの使い方ポスターと、準備方法を示したマニュアルです。水に強く、破れにくい仕様です。



ポスター(A3サイズ・防水)



マニュアル(A4サイズ・4ページ・PP加工)

携帯トイレの使い方ポスター
携帯トイレの運用マニュアル

いずれも100部 20,000円
(消費税・送料別途)

- ・マニュアルで準備手順がわかる
- ・災害用トイレの訓練に使用できる

【導入事例】

- ・横浜市港北区 様
避難所のトイレ初動対応を支援する「トイレスターキット」に採用
(地域防災拠点29拠点到配備)

詳細はこちら



https://www.toilet.or.jp/activities/keitai_manual/

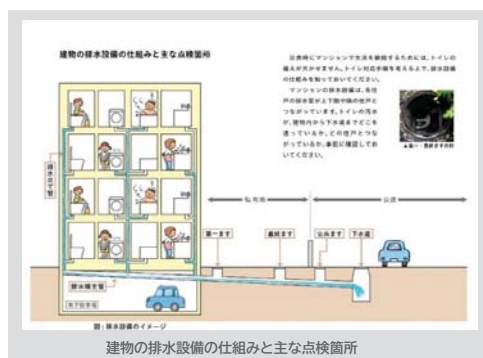
© NPO Japan Toilet Labo.

どうする？ 災害時のトイレ マンション編・戸建住宅編

■A5版／本文13ページ

■定価2,200円(税込み)/10冊

- ・建物の排水設備の仕組みと主な点検箇所
- ・トイレ対応手順を知ろう
- ・災害時のトイレ対応手順 など



ご購入はこちら



© NPO Japan Toilet Labo.



健康と生活を守ろう!家庭・職場に1冊必携

- ・災害とトイレについての基本知識
- ・家庭や職場ですぐにできる備え
- ・集合住宅や地域で協力したい対応のポイント
- ・避難所での時間を快適に保つ工夫 など

家庭や職場で備えたい方から、地域の防災リーダーや行政・企業の防災担当者まで、健康と生活を守るために必携です。

■四六判・192頁

■定価本体2000円+税

ご購入はこちら



© NPO Japan Toilet Labo.

日本トイレ研究所 オウンドメディア noteで更新中

TOILET MAGAZINE

Labo. NPO法人日本トイレ研究所

日本トイレ研究所は、「トイレ」を通してより良い社会づくりを目指して活動しているNPOです。私たちが日ごろ気になっていることや社会で課題になっていること、排泄やトイレに関する情報を届けたいと考えています。トイレ・排泄情報の充実と、よりよいトイレ環境づくりを目指します。

2 フォロワー 76 フォロワー



設定

【3月13日(金) 第79回トイレラボ勉強会 (オンライン開催) 非会員向けチケット

ホーム 記事 メンバーシップ マガジン スキ プロフィール ストア 月別

新着 人気

固定された記事



トイレの備えがなければ、避難生活は成り立たない!

Labo. NPO法人日本トイレ研究所 1年前

♡ 6 〴〵



災害時のトイレ衛生に関する意識調査ー“知っている”だけで終わっていませんか?

Labo. NPO法人日本トイレ研究所 5日前

♡ 10 〴〵



インクルーシブな公共トイレから社会を考える

Labo. NPO法人日本トイレ研究所 2週間前

♡ 6 〴〵

https://note.com/toilet_lab0



日本トイレ研究所 YouTube

携帯トイレの使い方、災害時のトイレ対応 など発信
中

こちらから



<https://www.youtube.com/@LABOTOILET>



活動に参加しませんか？

会員(企業・個人)募集中!!!

- ・イベントや会合、講習会等の優先案内
- ・トイレラボ勉強会(年3回)無料
- ・有料の講習会等の割引
- ・アニュアルレポートの送付

詳細はこちら



命を守るトイレ備蓄プロジェクト キックオフミーティング 資料集

企画・編集 特定非営利活動法人日本トイレ研究所 www.toilet.or.jp/

〒105-0004 東京都港区新橋 5-5-1 IMC ビル新橋 9F

発行日 2026 年（令和 8 年）6 月 25 日

本資料の内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。